


一般質問通告書

次のとおり、質問したいので通告します。

令和5年2月9日

山北町議会議長 児玉 洋一 殿

受付番号	第5号	質問議員	8番	清水 明	
件名	任期を振り返り、4年間を検証する				
要 旨					
<p>4年間の任期を終了するにあたり、過去の質問に対する検証とその後の進捗状況及び新たな角度からの再質問をする。</p> <p>1. 令和元年6月定例会で旧山北体育館跡地の利用について、地域の施設として旧施設の枠にとらわれず多目的な施設にする必要があるとの観点から質問した。「体育施設を基本としながらも、防災拠点の施設としての役割や、自治会・各種団体等の集会施設の機能も当然必要と考え、多くの用途で利用できる身の丈に合った施設を検討したい」との回答を得たが、その後コロナ禍のため今日まで建設の日程が延びている。この間、資材等の高騰があり、身の丈に合ったということが建設規模の縮小につながる心配はないのか。</p> <p>2. 令和2年12月定例会で LGBT を総合計画に位置づけるように求めたが、回答は一つに特化する考えはないとのことであった。行政は施策の優先順位を付け、順次実行することで誰一人取り残すことがないようにすることが重要である。国の動向も踏まえて次期総合計画に取り入れる考えはないか。</p> <p>3. 令和3年3月定例会で官（役場）と民（地域住民）を結ぶ役割を担う「地域防災リーダー」の必要性を問い、防災官の下、育成・支援に繋げていくとの回答を得たがその後の進展は。</p> <p>4. 令和3年12月定例会で、パートナーシップ制度・日本語を母国語としない人々・ヤングケアラーについて相談等の実績を質問したが、</p>					

「困難事例の把握はないが声なき声を集めるよう取り組む」との回答であった。また、さまざまな組織と連携を図り、情報収集に努めており、把握した場合には介護サービスや障がいサービスの利用を含め、必要な相談・支援に積極的に取り組んでいくとの力強い回答を得たが、情報収集に漏れはないのだろうか。

5. 令和4年6月定例会で、富士山火山の噴火に対する広域避難計画を年度中に策定するとの回答があった。全町あげて避難する際の具体的な避難計画を問う。

6. 令和4年12月定例会で自治会組織の再生を質問し、祭りと防災が重要な鍵となると指摘したが、災害時の自助・共助・公助について国も自助重視から共助・公助への転換に変わる空気もある。特に集団避難となった場合には広域にわたるため、従来の自動車での避難禁止は事実上転換せざるを得ず、近隣住民による乗り合いでの避難を推進せざるを得ない。戦前、戦中の「向こう3軒両隣」の暗い記憶を払拭させた新しい共助が自治会の再生につながると考えるがいかがか。